

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹	福祉	H0601051
	②	中野 航太	経営	H2001058
	③	伊瀬 卓	経営	H1801008
	④	大串 哲人	福祉	H2101022
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	東玉川善隣保育園			
事業所連絡先	〒	158-0084		
	所在地	東京都世田谷区東玉川2-35-16		
	TEL	03-6425-7276		
事業所代表者氏名	岡田 好史			
契約日	2023 年 9 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 11 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 1 月 10 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 10 月 3 日			
自己評価結果報告日	2024 年 1 月 10 日			
訪問調査日	2024 年 1 月 19 日			
評価合議日	2024 年 2 月 9 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めて頂くため、評価の全体像や具体例を用いたわかりやすい資料を作成し、丁寧に説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によりわかりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ① 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ② 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ③ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024 年 2 月 9 日

事業者代表者氏名

〒158-0084 東京都世田谷区東玉川二丁目35番16号
社会福祉法人 東玉川善隣保育園
善隣福祉会 園長 岡田 好史
TEL 03-6425-7276
FAX 03-6425-7393



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>①子ども中心の保育を原則とする ②子どもの思いや願いを受け止め、子ども一人ひとりの発達過程に応じて保育が行われるよう努力する ③職員全員が参加して進める ④「保育所保育指針」および「世田谷区保育の質ガイドライン」に基づく実践を充実させる方向で追及する ⑤保育をめぐる多様な関係者の参画や連携・協働、保育に関する理解の共有を図ること</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真面目に勤勉に仕事に打ち込む人材 ・常に謙虚に素直な心で仕事に取り組む人材 ・単なる指示待ちでなく自ら考え判断、主体的に動ける人材 ・多様な専門性をもつ職員が紡ぎだすチーム保育を理解し、園（組織）としての保育を考え動ける人材 ・子ども主体の保育ができる人材 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育は、いつも「養護」と「教育」が一体となっていることを理解し、子どもの成長に寄り添える使命感 ・保育園という「子どもが人生で初めて経験する集団（社会）」の中で、子どもたちの生きる力を育む場に立ち会う使命感

調査対象	調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。 [調査対象世帯数：43世帯(在園児49名)]		
調査方法	園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。		
利用者総数	49		
利用者家族総数(世帯)	43		
共通評価項目による調査対象者数	43		
共通評価項目による調査の有効回答者数	29		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	67.4		

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていますか」との質問に対して、「大変満足」48.3%、「満足」31%、「大変満足」と「満足」を合わせて79.3%の回答率となっています。「どちらともいえない」13.8%、「不満」6.9%、「大変不満」0%、無回答が0%でした。園のサービスに対する保護者の満足度が高いことが確認されました。個別設問では、問3「昼食・おやつなどの給食は、お子さんの成長段階や健康状態に応じて工夫されたものになっていると思いますか?」、問9「トイレ・食事スペースなどはじめ、園内は全般的にいつも清潔で整理整頓されていると思いますか?」について「はい」の回答率が96.6%で最も高く、問15「保育や教育の考え方や指導内容に関する説明は、様々な機会において丁寧に行われていると思いますか?」、問17「園の対応に不満を感じたとき、役所や第三者委員など園外の機関や窓口に相談できる仕組みがあると説明を受けたことがありますか?」では「はい」の回答率が62.1%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	23	5	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の79.3%を占め、「どちらともいえない」が17.2%、「いいえ」が3.4%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	26	3	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.7%を占め、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、子どもの楽しそうな様子に満足を示す声が多く寄せられました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	28	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の96.6%を占め、「どちらともいえない」が3.4%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、盛んな食育について満足を示す声が多く寄せられました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	20	7	2	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の69%を占め、「どちらともいえない」が24.1%、「いいえ」が6.9%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	19	3	0	7
この項目では、「はい」と答えた方が全体の65.5%を占め、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は24.1%という結果でした。自由記述では、満足を示す声が複数寄せられました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	22	6	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の75.9%を占め、「どちらともいえない」が20.7%、「いいえ」が3.4%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	21	4	4	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の72.4%を占め、「どちらともいえない」が13.8%、「いいえ」が13.8%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	26	3	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.7%を占め、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、子ども一人ひとりに向き合う姿勢について満足を示す声が複数寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	28	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の96.6%を占め、「どちらともいえない」が3.4%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	25	3	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の86.2%を占め、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が3.4%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	27	2	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の93.1%を占め、「どちらともいえない」が6.9%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、丁寧な報告について満足を示す声が複数寄せられました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	21	5	0	3
この項目では、「はい」と答えた方が全体の72.4%を占め、「どちらともいえない」が17.2%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は10.3%という結果でした。自由記述では、迅速な対応について満足を示す声が複数寄せられました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	26	3	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.7%を占め、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	25	1	2	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の86.2%を占め、「どちらともいえない」が3.4%、「いいえ」が6.9%、「無回答+非該当」は3.4%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	18	8	3	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の62.1%を占め、「どちらともいえない」が27.6%、「いいえ」が10.3%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	19	5	3	2
この項目では、「はい」と答えた方が全体の65.5%を占め、「どちらともいえない」が17.2%、「いいえ」が10.3%、「無回答+非該当」は6.9%という結果でした。自由記述では、保護者からの要望への対応について改善を期待する声が多く寄せられました。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	18	2	9	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の62.1%を占め、「どちらともいえない」が6.9%、「いいえ」が31%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>園の大切にしていることを示した「東玉川善隣保育園で行いたい保育」を作成しています</p> <p>園の保育方針を「一人ひとりの子どもたちを尊重し、ありのままを受容することで、子どもたちと信頼関係を築き、自主性と主体性を育む保育を展開する」、保育目標を「じょうぶな体、やさしい心、自分で考え行動する子ども」と定めています。これらの内容について職員の理解を深める取り組みとして、「東玉川善隣保育園で行いたい保育」を作成し、ホームページに掲載するとともに入職時に説明しています。加えて、保護者に対して「保育園のしおり(重要事項説明書)」に記載するとともに、園見学や保護者懇談会等で伝えています。</p> <p>園長は予約システムや職員の労務管理について、アプリを活用し効率化を図っています</p> <p>園長は、「職員の意欲向上および地域の情報収集」を最も重要な役割だと考えています。その役割と責任について、職務権限規程に記載し、職員会議などで伝えています。なお、園長が指揮した事例として、ICTアプリの活用による業務の効率化があります。一時保育の予約システムや職員の労務管理について、アプリを活用し効率化を図っています。また、保育アプリの機能(園内連絡・資料室)を利用して、職員間の情報共有を進めています。これらの取り組みにより、残業ゼロ・有給休暇取得率の向上などに繋がっています。</p> <p>重要な案件は園の職員会議で共有するとともに法人理事会で共有しています</p> <p>重要な案件を検討する場として、法人では、理事長や業務執行理事が参加する理事会を、園では、主に職員会議を設けています。なお、園の職員会議で検討・決定した案件についても理事会で密に共有するようにしています。最近、法人内で検討し職員に周知した重要案件として、「借上げ宿舎に係る手続きや費用負担等について」などがあります。そのような事例については、書類配布等で伝えています。</p>			

カテゴリー2	
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行
サブカテゴリー1(2-1)	
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(○○○○○○)
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している <input type="radio"/>非該当
サブカテゴリー2(2-2)	
実践的な計画策定に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	評点(○●●)
評価	標準項目
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している <input type="radio"/>非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている <input type="radio"/>非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる	評点(○○)
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
カテゴリー2の講評	
<p>見学会や保護者懇談会の意見を受けて英語レッスンを開始しています</p> <p>利用者のニーズは、保護者懇談会・行事後アンケート・保育アプリにより把握し職員会議で共有しています。その上で、「英語レッスン(正課プログラム)の導入」に取り組み、3・4・5歳児を対象に英語レッスンを開始しています。加えて、今年度より2歳～5歳児までの英語ダンスも開始しています。また、職員会議(月1回)・意向調査(年1回)などで職員の意向を把握しています。</p> <p>町会との連携をはじめ地域活動に積極的に参加し、地域ニーズを収集しています</p> <p>地域の福祉のニーズは、私立園長会・保育ネット(公立園含む)・幼保小連携会議などにより把握しています。また、園長は地域の新春祭りや近隣小学校の90周年祝賀会などにも積極的に参加しています。加えて、近隣公立園との交流(自己紹介・園庭遊び・ホール遊び)や、幼保小連携交流会として、近隣の5歳児と一緒に小学生との交流を行っています。なお、町会長とも密に連携しており、苦情解決の第三者委員になってもらっています。</p> <p>事業計画は法人計画の一部として園長が作成しています</p> <p>年度計画は法人計画の一部として園長が作成し、サーバーに保管するとともに、年度初めの職員会議などで伝えていきます。さらに、予算編成も園長が担当しています。事業計画を推進するために、「小中高生職場体験受入れ年10日以上・実習生受入れ年6人以上」などの目標を設定し、進捗状況を職員会議などで確認しています。計画を見直す場合は、理事会で検討し、園長が中心となって判断しています。</p>	

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

保育士に求める知識やスキルを示した資料を作成し、ホームページで公開しています

法人職員または保育職員として守るべき法や規則について「東玉川善隣保育園で行いたい保育」を整備し、法人理念・保育理念に加え、保育士に求める知識やスキルを記載しています。なお、これらの資料はホームページで公開するとともに、入職時に説明し職員の理解を深めています。入職前の職員や入園希望の保護者は、この資料を確認した上で来園する姿が多くみられています。

苦情解決制度を整備し、重要事項説明書や園内掲示で保護者に伝えています

苦情があった際には主任が受け付けし、園長が解決にあたっています。そのような体制や役割については「入園のしおり(重要事項説明書)」や玄関に掲示することで保護者に伝えています。なお、意見や要望については、「意見・苦情対応マニュアル」に沿って対応し、利用者に直接メールや電話をするほか、口頭での説明などで回答しています。虐待が疑われる事例が生じた際には、虐待防止マニュアルに沿って、児童相談所などと連携し対応しています。

「ひがたまクラブ(保育所体験)」を開催し、地域の方と在園児の交流を促しています

地域貢献の取り組みとして子育て支援事業「ひがたまクラブ」を年10回実施しています。具体的な内容として、在園児との制作・夏祭り・クリスマス会等園内行事への参加を企画し、ホームページで告知・近隣の児童館へのチラシ配布・区の出張所でのポスター掲示などにより周知しています。また、ボランティアなどを受け入れる際は、「保育のお仕事職場体験参加の手引き」に沿って、地域子育て支援事業の担当職員が対応しています。なお、ボランティアには、お散歩の同伴・洗濯物畳み・絵本読み聞かせなどの活動機会を用意しています。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>園のリスクについて、法人理事会で検討し対策を講じています 運営に係るリスクは理事会で検討し、「園児の定員割れ」「保育士の定着率の低さ」「保育制度の改正」などを挙げています。そして、各リスクに対して「園の特色(英語レッスン等)の充実」、「幅広い年齢層の職員構成への転換」、「新規事業計画の立案」などの対策を打ち出しています。また、事故報告書は園内で周知するとともに、区に報告しています。ヒヤリハットは保育アプリを使用して共有し、職員会議で対策を検討しています。</p> <p>今年度の整備に向けて、現在BCPを作成中です 危機管理の方法や内容について職員会議で周知し、ホームページなどで利用者や説明しています。事故・感染症・侵入・災害などが発生した際は、事故報告書・ヒヤリハット報告書・保育日誌に記録しています。その上で発生要因を職員会議で分析するとともに、再発防止策を一斉メール(場合により個別メール)により利用者や報告しています。今年度の整備に向けて現在BCPを作成中です(令和5年度末作成完了予定)。</p> <p>情報の取り扱いなどについて、個人情報保護規程・文書管理規程に沿って管理しています 情報の収集・利用・保管・廃棄については、「個人情報保護規程・文書管理規程」で定めています。また、職員とは入職時に「職員誓約書」を取り交わして情報管理や文書管理の遵守を求めています。なお、個人情報や機密性の高い情報を含む文書は、事務室内キャビネットに保管しています。そのほか、職員に貸与している電子機器には、職員毎にID及びパスワードを付与するなどのアクセス制限を設けています。また、個人情報の利用目的や開示請求の方法については、「入園のしおり(重要事項説明書)」に明示しています。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

職員に求める能力や育成方針は「東玉川善隣保育園で行いたい保育」に示しています

職員の採用に際して、経験年数・年齢構成・人柄・職務経歴などを重視しながら、外部求人媒体を活用し求職者の応募を促しています。なお、職員に求める能力や育成方針は「当園が考える保育の質向上のための方策」として「東玉川善隣保育園で行いたい保育」に示しています。また、入職後は、次年度意向調査(毎年11月前後)などで職員の意向を把握しています。

職員の意見をもとに、給食チェックリストの導入などサービスの質の向上に繋がっています

年度初めに個人別の研修計画を作成し職員に周知しています。受講した研修内容は、復命書に記録し、回覧することにより、他の職員と共有しています。また、職員一人ひとりの気づきや工夫を活かすために、職員会議において意見交換を行うとともにクラスごとに発言の機会を設けることで、会議内での発言を促しています。そのような取り組みの成果として、連絡帳や保育日誌の記述方法の明確化・給食チェックリストの導入・夕方の自由遊び内容の変更を実施するなど、サービスの質の向上に繋がっています。

有給休暇の取得率を高めるため、年度初めに有給残確認表を配布しています

福利厚生具体的な内容として、退職共済・社会福祉施設従事者総合保険などを取り入れています。また、有給休暇の取得率を高めるために、年度初めに有給残確認表の配布を、出産・育児休暇の取得を促進するために、出産予定者への制度説明など工夫しています。加えて、職員の定着率を高めるために、宿舍借上げ支援制度などを活用しています。職員の意識については、次年度意向調査(毎年11月前後)で把握に努めるとともに、職員会議等で要望の吸い上げ、働きがいや意欲向上に取り組んでいます。

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 前年度において、「利用者の定員割れ」を重要課題の一つと掲げていました。その背景として、開設から間もないことや新型コロナの影響があったことが挙げられます。そのような課題に対して「年度を通した定員充足率80%以上」を目標として掲げていました。そこで、パート保育士の配置で充実した職員体制・外部講師を招いての正課プログラム導入・ホームページ内のコンテンツ充実に取り組みました。その際、園見学および園体験の積極的な告知をするなどの工夫を取り入れました。そうした取り組みにより、4月(本年度当初)の園児数は46名(前年度34名)で、前年度比35%増加となりました。また、付随的に4月(本年度当初)の一時預かり利用者数は49名(前年度41名)で、前年度比20%増加するなどの成果も上がりました。今後さらに成果を高めていくために、ホームページの更なる充実(よくある質問についてわかりやすく掲載など)に取り組む方針です。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 開設時より発生していた利用者の定員割れについて、損益分岐点の入所率80%を目標として、広報活動の強化に取り組んでいます。具体的な取り組みとして、年2回(15,000部/回)のチラシを配布するとともに、ホームページ内のコンテンツを充実させています。こうした取り組みにより、年間入所率13.4%⇒57.4%⇒71.5%⇒90%と確実に向上させることができています。今後、新たにHP内で園見学および園体験のオンライン申込ができるシステムの構築にも取り組もうとしており、成果が期待されます。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度において、「職員の離職率軽減」を重要課題の一つと掲げていました。その背景として、20代～30代の職員を中心に退職者が発生したことが挙げられます。そのような課題に対して「40代以上のベテランを採用し、年代のバランスを図ること」を目標として掲げていました。そこで、求人媒体の見直しを行い、ベテランの登録者の多い求人媒体に変更しました。その際、園紹介の資料に写真を多用するなど工夫を取り入れました。そうした取り組みにより、前年度末の退職者は常勤職員1名のみでした。その一方で、常勤職員2名・非常勤職員6名を採用し、20代～60代までのバランスの取れた職員年齢構成となりました。また、付随的に採用費用の大幅な削減(前年度比約80%減)に繋がるなどの成果も上がりました。

目標の設定と取り組み	<p><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</p> <p><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</p>
取り組みの検証	<p><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p> <p><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>
検証結果の反映	<p><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p> <p><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</p> <p><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</p>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

退職者が多く発生したことから、職員の年齢バランスを意識した採用活動に取り組んでいます。当初は20代から30代が中心でしたが、現在は20代～60代までバランスよく配置され、退職者が軽減している状況です。特に、財政面では、職員が安定したことによる採用費用の大幅な削減が大きな成果だったと評価しています。今年度の目標として、新たに養成校の学生を対象とした実習やインターンシップの導入にも取り組もうとしており、成果が期待されます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ1の講評			
<p>園の保育の今が伝わるように、SNSを毎日配信しています</p> <p>園見学や入園希望者に向けて園のしおりやパンフレットを発行し、「保育理念・保育目標・デイリープログラム・年間行事・園内マップ」などの内容を紹介しています。ホームページには、利用時間・延長保育利用料・一時預かり申込先及び利用料・SNSなどを掲載しています。なお、SNS(写真共有アプリ)は毎日、他は随時更新しています。情報提供の際は、写真を多く掲載するなど工夫しています。今後、外国語でのニーズにも対応できるように案内や資料の外国語版を検討しています。</p> <p>関係機関のホームページへの情報掲載以外に、地域の施設にパンフレットを置いています</p> <p>園の情報は、行政や関係機関などにも提供しています。区のホームページには、私立保育園・玉川地域のページがあり、施設の概要や保育方針、保育の特徴などの情報が掲載されています。また、園見学・一時保育の予約サイトにも施設の特徴や環境、園・園長からのメッセージ、保育理念・方針、保育の特徴など詳しい情報が掲載されています。そのほか、奥沢子育て児童ひろば(地域の子育て支援施設)には園のパンフレットを置かせてもらっています。</p> <p>園見学は希望者に合わせて開催するほか、毎月1回のひがたまクラブでも説明しています</p> <p>見学会は主に園長が担当し、希望者の日時に合わせて随時開催しています。その際、「ネイティブ講師による英語プログラムや英語ダンス」「保育士を多く配置していること」など、園の特長について分かりやすく説明しています。そのほか、毎月1回、5家庭程度を上限に、地域子育て支援事業(ひがたまクラブ)を開催し、在園児と一緒に制作したり行事に参加したりするなど保育園体験や在園児との交流を通じて、保育内容を紹介しています。入園や一時預かりを検討されている家庭のほか、入園決定者も入園前に利用しています。</p>			

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園説明会では個別面談と健診も行い、保育内容について個別に説明しています 入園決定者には「保育園のしおり・児童票・生活状況調査票」を用意し、個別面談時に手渡すほか、場合により郵送しています。個別面談は2月上旬(一次選考者分)、3月上旬(二次選考者分)にそれぞれ個別に開催しています。質問は個別対応するなど、保育内容をていねいに分かりやすく伝えています。サービス内容については「重要事項説明書」、プライバシーの保護については「個人情報取扱方針同意書」で同意確認を得ています。サービス内容への保護者の意向を入園前個別面談と個別質問票で把握し、児童票の保護者意向欄等に記録しています。</p> <p>入園時の子どもの不安やストレス軽減と保護者支援を兼ねた慣れ保育期間を設けています 入園にあたり、アレルギーや既往歴などの子どもの健康状態を「健康状況・生活状況調査書」で把握し、あわせて入園前の生活状況について2週間分の記録提出を求めています。また、子どもの不安やストレスが軽減されるように、そして保護者の意向を汲み取り1～2週間を目安に慣れ保育期間を設けています。その期間中は、登降園時に直接保護者へ園での子どもの様子を伝えたり、保育アプリを使用してメールでやり取りしたり、ていねいに直接説明することを心掛け保護者の保育に対する理解や安心を深めています。</p> <p>保育アプリを介して、連絡帳のやり取をまとめた冊子や園生活での写真を提供しています 卒園児には、卒園式に担任からの寄せ書きや在園中に作った制作物をプレゼントしています。また、保育アプリの機能を利用して連絡帳のやり取りを冊子にした「連絡帳冊子サービス」や、園での普段の生活や行事の写真共有や販売も提供しています。また、卒園児からは卒業制作を園に寄贈しています。転園する子どもの中で、アレルギーを持っている子どもについては転園先へ直接連絡し、情報を引き継いでいます。</p>		

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	13/13
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		○非該当
サブカテゴリ-3の講評			
<p>連絡帳やドキュメンテーションなどを保育アプリで管理し、保護者と共有しています</p> <p>子どもの心身状況や生活状況などを把握するため、1・2歳児クラスでは、保育日誌に子ども一人ひとりについての記録欄を設け、保育アプリを介して保護者と連絡帳を毎日取り交わしています。3～5歳児クラスでは、ドキュメンテーションを保育アプリで共有しています。子どもの個別の保育目標については「児童票・月案指導計画」に、家庭や保護者の個別のニーズや支援方針は「家庭状況調査票・面談記録」に記録しています。そして、児童票において、未満児は毎月、幼児は四半期ごとに集約しながら記録しています。</p> <p>全体的な計画や指導計画は、子どもの実態や保護者のニーズを把握し作成しています</p> <p>「全体的な計画」は年度末に見直しを図り、「特色ある保育」の追加をするほか、「小学校との連携」について改定しました。それに基づき、年・月・週を単位として指導計画を作成しています。指導計画の作成では、就学への準備などのニーズを把握し、年明けから午睡時間帯の過ごし方(制作や自習)など状況に応じて配慮しています。個別の指導計画は1・2歳児クラス、個別支援が必要な子どもを対象に作成しています。「全体的な計画」は保育アプリに提示し、個別の指導計画は個人面談で、専門用語を使わずわかりやすく説明しています。</p> <p>子どもや保護者の状況は各会議と保育アプリを併用し、機能的に情報共有しています</p> <p>職員間で子どもに関する情報を共有するため、月1回、園長・主任・常勤職員(保育士・管理栄養士・調理師)が参加する職員会議のほか、給食会議などの定例会議を開催しています。そのほか、保育アプリ内の園内連絡機能での情報共有や随時担任同士で話し合いを行っています。日々の子どもや保護者の状況については、保育アプリ・会議議事録を活用するとともに、随時職員会議で情報共有しています。子ども一人ひとりに対する理解を深めるために、職員会議や「食事の場面での寄り添い方」などテーマを設けた園内研修を自発的にを行っています。</p>			

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ5の講評			
<p>おむつ交換は他の子どもの視線が届かない専用スペースで行っています</p> <p>個人情報については、入園面談の際にプライバシーポリシーを説明し、「個人情報取扱方針同意書」で同意確認を得ています。突発的に個人情報を提供する必要が発生した場合は、電話により同意を得て対応しています。子どもの羞恥心に配慮し、着替えをする際にはパーテーションやカーテンで目隠しするとともに、3歳児クラスから男女に分かれて着替えを行っています。加えて、性教育については、各児の成長を考慮しクラス担任が適宜実施しています。そのほか、1歳児のおむつ交換を他児の視線が届かない専用スペースで行っています。</p> <p>子どもや保護者の価値観や生活習慣を把握し、各家庭の実情に添った保育を行っています</p> <p>子ども一人ひとりを尊重する姿勢を「子どもの権利マニュアル」に示し、普段から保育アプリを介して職員間で情報共有しています。子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮するために、行事アンケートや個別面談で意向を確認しています。また、産休育休中は早めに迎えに来ていただき親子のふれあいをいつも以上に持つことや、嫌いな食材は残して構わないほか、塗り薬の塗布等は可能な限り引き受けるなど、個別の事情に寄り添っています。さらに、宗教観や文化を考慮し、給食の食材や水分補給の方法を給食会議で話し合うなど柔軟に対応しています。</p> <p>虐待防止対応マニュアルのもと、保育アプリで常に情報共有して意識を高めています</p> <p>虐待や育児困難などの事案については、「虐待防止対応マニュアル」に則って対応しています。虐待防止及び適切な対応に備え、職員へは行政からの配布文書を保育アプリの掲示板(資料室)にあげて、理解を深める支援を行っています。さらに、今後は不適切保育について改めて学び直す機会を提供することを検討しています。加えて、全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」の活用により職員自らの行動を振り返ることを促しています。そのほか、虐待に関するニュースの報道があった際は保育アプリで情報共有して、意識を高めています。</p>			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>「東玉川善隣保育園で行いたい保育」をベースに業務の標準化を図っています</p> <p>業務の標準化を図るため、法人として「東玉川善隣保育園で行いたい保育」を作成し職員に配布しています。保育の質の向上に対する「5つの基本的な視点」「3つのテーマ」「方策」「ゾーニング保育」などを明記し、職員間で共通言語化を図っています。また、随時質問に応じ、マニュアルに対する理解の普及に努めています。さらに、園のホームページにもPDFで掲載し、保護者などに向け広く園の考えを発信しています。そのほか、園独自に「お散歩コースマニュアル」などのマニュアルも作成し、主任保育士を中心に日々の保育の中で確認しています。</p> <p>職員会議や懇談会での意見を踏まえ、マニュアルを見直しサービス向上に努めています</p> <p>業務水準の向上を図るため、「東玉川善隣保育園で行いたい保育」などのマニュアルの見直しを定期的に行っています。職員会議や保護者懇談会での意見を踏まえながら、園長が実施し、園のホームページなどで共有しています。職員の声を受けて、サービスを見直した例として、「早番チェックリスト、遅番チェックリスト」があります。その際、「掃除や換気、戸締り等の具体的な項目追加」などの視点で、見直しを図りました。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(○○○○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>ゾーニング保育により、非認知能力を育む保育の環境づくりを行っています</p> <p>園の周辺には緑豊かな公園がたくさんあり、園舎には1階と3階に園庭があります。その中で、「ゾーニング保育のコンセプトのもと、各保育室内の保育環境の充実」をテーマとした環境設定に努めています。保育室内は食事・お昼寝の生活ゾーンや、ままごと・絵本などの遊びゾーンを設けています。3～5歳児クラスは縦割り保育を導入し、3部屋の保育室を自由に行き来できるとともに、いつでも使える道具棚や子どもの成長に合わせて高さを調節した書棚を設置し、自ら選択して使えるように工夫しています。</p> <p>異年齢交流や国内外の異文化に親しむことで、互いの違いを知る機会を設けています</p> <p>「年上の子どもの憧れる気持ちを持つ、年下の子どもの思いやる気持ちを育む」を目的に毎日、合同で散歩に出かけるなど、異年齢交流を図っています。その際、子どもの状況に合わせて公園自体の変更やコースの見直し(安全面を考慮して)など工夫しています。一方、海外の文化に親しむことや互いの違いを知ることが出来るように「価値観や生活様式が地域によって異なることを知る」を目的にネイティブ講師による英会話レッスンや英語ダンスレッスンなどを取り入れています。また、国内各地の文化にふれる機会として、献立に郷土料理を取り入れています。</p> <p>「一人ひとりの子どもたちを尊重し、ありのままを受容する」方針のもと支援しています</p> <p>気になる子どもには非常勤職員を加配するとともに、パーソナルスペースを確保するなど、環境を整えています。また、専門機関と連携し、臨床心理士の助言を受けながら適正な指導を心がけています。子ども同士のけんかやトラブルが生じた際は、可能な限り見守りを続け、子ども同士で解決できるように支援しています。あわせて、事故報告書・ヒヤリハット報告書を作成し、職員会議において再発防止策を検討しています。就学支援の一環として、近隣の小学校主催の学校体験に参加し、保護者へ保育アプリで情報を発信しています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

園での様子を保育アプリやドキュメンテーションで分かりやすく伝えていきます
 保護者との連絡は、保育アプリを活用しています。登園時には毎回保護者へ体温・排便・起床時間・朝食時間・前夜の夕食時間及び就寝時間などを確認し、必要な情報を保育日誌・保育アプリに記録し、職員間で引き継いでいます。また、保育アプリ内の連絡帳(機能)には、健康状態(体温・給食の完食状況・午睡時間・排泄の回数など)を入力しています。降園時には、当日のエピソードなど要点を簡潔に対面や連絡帳で報告するほか、ドキュメンテーションの配信や写真掲示(販売)などを行っています。

子どもの年齢や家庭状況を踏まえて、基本的な生活習慣が身につくように支援しています
 全体的な計画に示した成長発達の目安や「年齢別/身に付けたい基本的な生活習慣チェックシート」などに子どもの発達段階に応じた支援の方法を示しています。具体的な取り組みとして、食事指導は、家庭での食具の使用状況を把握し、それに合わせて個別に対応しています。排泄指導は、2歳の始めからトイレトレーニングを実施しています。歯磨き指導は、3歳児から毎食後に鏡の前で歯磨きの習慣づけを行っています。着替えについては、本人の気持ちを尊重し、保育者は着替えに寄り添いさりげなく援助をして、本人の達成感を重視するようにしています。

午睡時間は身体を休めることを目的に、子ども一人ひとりに配慮しています
 午睡の時間は、乳児が12時半～14時50分、幼児が13時～14時50分で設定しています。その際、コットベッド・タオルケットなどの寝具を使用しています。なお、午睡時間に眠れない子がいた場合は、ほかの子どもに影響ないように配慮しながら、身体を休められるようにしています。コットベッドでゴロゴロしたり、ブロックや絵本などを持って多目的のルームに移動したりするほか、屋上テラスや廊下などで静かに遊んで過ごしています。また、就学に向けて5歳児クラスは、年明け頃から徐々に午睡をなくし、週3回は起きていられるようにしています。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがまよりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子ども一人ひとりを尊重したうえで集団活動に主体的に関われるようにしています
 子どもの集団活動として、英会話教室・英語ダンス教室を行っています。また、夏祭りの出し物の内容などに子どものアイデアを可能な限り取り入れることで、子どもの主体性が発揮されるよう取り組んでいます。その際、集団での外遊びをしたくない子どもがいた場合、室内で遊べるようにするなど配慮しています。子どもが自分の気持ちを調整できる力を身に着けることができるよう、朝の会や遊びのはじめに生活や対人関係の約束(ルール)を説明する機会を設けるとともに、普段の生活から援助しています。

制作、運動遊び、外国人との交流など遊びをベースに多様な経験の場を提供しています
 子どもが言葉に興味を持てるように、乳児期は絵本の読み聞かせをして、幼児期は制作を通して文字に親しむ取り組みを行っています。その際、職員は質問形式での会話を心がけています。そのほか、英会話教室・英語ダンス教室など自分の意見を発表する機会を設けています。また、毎日の散歩で目にする植物や生き物について語り合ったり、絵画制作や粘土遊び・英語ダンス教室、粘土を使った造形活動・レゴ制作・パズル制作・ブロック遊びなどを通して感性を広げ、子どもがさまざまな表現を楽しめる機会や環境を設けています。

園庭を有効に活用しながら、積極的に近隣の公園や施設へ出かけています
 園庭は1階と3階に設置しており、ボール遊び・アスレチック・水遊びなどの遊びや活動を行っています。1階はピロティになっているため、日差しが強い日や雨天でも十分に体を動かせる環境を整えています。3階は人工芝を敷いた屋上で、季節に応じた遊びを展開しています。天気が良ければ毎日散歩に出かけて、公園や神社、消防署など目的に応じて訪れています。公園や散歩の途中では、遊具での遊び・木の実拾い・虫探し・電車や消防車の見学などをして過ごすとともに、1階の園庭で水栽培した植物など自然にふれる機会を設けています。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>夏祭りや親子遠足は、子どもの成長を保護者と一緒に感じる機会として力を入れています</p> <p>子どもの成長や保育の成果を発表する機会として「親子遠足での英語ダンス披露・制作物(作品)の掲示」を、季節や文化・伝承に親しむ機会として「七夕・敬老の日・クリスマス会・節分豆まき」を行っています。特に、保護者が参加し、子ども主体で内容を定める夏祭りや親子遠足は、子どもの成長を感じられる機会となっています。また、行事への興味や関心を高めるため、行事の開催と季節に合わせて装飾を変えるなど工夫しています。そのほか、行事の振り返りとして、思い出画を描く、自分たちの発表を動画で観るなどを行っています。</p> <p>保護者が参加しない行事についても様子が伝わるよう見える化に取り組んでいます</p> <p>行事への保護者の理解や協力を得るために、年間行事予定表を3月(在園児)、4月(新入園児)に保育アプリで一斉配信しています。行事ごとの目的はクラス懇談会にて伝え、開催前にクラス便りで告知しています。保護者が参加できる入園・進級の会、保護者面談と保育参観(兼生活発表)、夏祭り、親子遠足では、共に子どもの成長を喜び合う機会としています。保護者が参加しない活動についても保育アプリを介して、ドキュメンテーションの配信や写真販売で伝えていきます。夏祭りの後にはアンケートを実施し、保護者の声に耳を傾けていきます。</p> <p>誕生日会はクラス全員が楽しめるプログラムを用意し、共感力を育てています</p> <p>子どもの誕生日は、園だよりで告知し保育室内にも掲示したうえで、クラスごとでお祝いしています。誕生日会では、全員が歌でお祝いするなど、祝う側の子どもも含めて全員が楽しめるような内容のプログラムにしています。また、季節にちなんだ食事の提供など工夫した給食を用意しています。さらに、写真と手形、担任からのメッセージカード等をプレゼントするとともに、担任が劇やパネルシアターなどをして盛り上げています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが安心して落ち着いて過ごせるように、環境づくりや職員体制を整えています</p> <p>子どもが安心してくつろげるように、採光に優れた園舎設計や白と園のシンボルカラー緑を基調として、清潔感・明るさを考えた内装にするなど、収納庫を多く設け、整理整頓を心掛けた環境づくりをしています。また、園の周囲の植込みを保護者のボランティアが刈ってくれるなど、保護者との連携も図っています。そのほか、通常の職員数に加えて別に担任をつける加配により個別支援を充実させた職員体制を整えています。子どもが疲れた際に身体を休めることができるよう、そのほか、保育室の一角に絵本ゾーンを設け、職員が寄り添って対応しています。</p> <p>延長保育は落ち着いて過ごせるように、子どもととのスキンシップを大切にしています</p> <p>18時15分～20時15分を延長保育時間として設定しています。それに合わせて、18時から合同保育を行っています。合同保育は1歳児室で行い、パズル・積み木・絵本などの遊びや玩具で過ごしています。補食を提供する際には、家庭での夕食に影響のない程度とし、食事量を必要最低限にしています。延長保育の時間帯は、延長保育担当の非常勤職員1名を専任にする(他1名は常勤保育士によるローテーション)など職員体制を整え、子ども一人ひとりととのスキンシップを多くすることを大切にしています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作り配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>食事は楽しく自ら進んで食べようとする意欲を引き出すように取り組んでいます</p> <p>食事は各保育室で楽しく食事ができるようにすることを心がけています。その際、4人1組で島を作り、いつも座っている席で安心して食事ができるように工夫しています。また、食事中は室内を明るくし、空気清浄機の設置など清潔な空間を維持するとともに、完食を求めず、楽しく食べることを重視しています。職員は子ども自身から進んで食べよう、という意欲を引き出し、いけるように寄り添っています。また、栄養士や調理師は食の面から保育を担う役割として、毎日各保育室に足を運び、喫食状況を確認するなど食を通じて子どもを支援しています。</p> <p>アレルギー食の提供は「食物アレルギー児対応マニュアル」に沿って対応しています</p> <p>メニューは季節を感じられる食材や献立を大切にしています。食器は1歳児が扱いやすいよう浅めの皿で提供するなど、年齢別に使い分けて用いるなど工夫しながら提供しています。また、行事の際の食事は、食欲をそそり、楽しめるよう盛り付けや色彩を豊かにするなど、雰囲気を盛り上げています。食物アレルギーのある子どもには、「食物アレルギー児対応マニュアル」に沿って、園で食材を用意して代替食を提供し、他児から距離を置いた席で、色違いの食器・名入リトレーを使用・職員同士による提供時のダブルチェックを行っています。</p> <p>子どもの五感に訴え、「食を営む力」を育むように取り組んでいます</p> <p>「食材の調理前(元)の姿・形・触感を知ってもらうこと」を大切に食育活動に取り組んでいます。食文化や栄養に関する知識と関心を深めることを目的とし、毎月食にまつわる絵本を使いながらの紹介や、当日使われている食材について三色食品ボードを使って説明しています。また、調理体験は、2歳児クラスから機会を設けて野菜の皮むきなどを体験するとともに、5歳児クラスになると、手打ちうどんなどの調理も行っています。そのほか、保育所体験(ひがたまクラブ)では園の給食を保護者にも食べてもらう試食会を行っています。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが安全に関心を持てるよう、防災・防犯訓練や交通安全指導などを行っています</p> <p>子どもが自身の安全に関心を持てるよう毎月防災訓練を実施し、火災や地震を想定して防災頭巾の被り方や消火体験を行っています。また、年2回の自衛消防訓練の際に、消防士が来園し、読み聞かせや消防車に乗せてもらっています。防犯訓練では、散歩先の公園で職員が不審者に扮し、不審者対応を行っています。交通安全指導では、散歩前に職員から約束事の確認を行っています。さらに、子どもの自身の意識を高めるために園内危険箇所探検を実施するほか、職員が毎月見回り、チェック表で管理することで事故・怪我の防止につなげています。</p> <p>嘱託医による定期健診や普段からの健康指導で丈夫な体を育てています</p> <p>子どもの健康状態を把握するため、嘱託医による健康診断(5月・11月)および嘱託歯科医による歯科検診(全園児・年1回)を実施しています。健診の結果は児童票に記入し、個別に結果を知らせています。身体測定は毎月身長と体重の測定を行い、各児童票と保育アプリに記入し、伝えています。与薬は基本的に行っていませんが、塗り薬は与薬依頼書の提出とともに預かっています。医療的ケアを必要とする子どもについては、かかりつけ医に留意事項を確認するとともに、専門医による巡回指導を受け、連携を取りながら対応しています。</p> <p>子どもの健康維持の一環として、毎日SNSで給食やおやつレシピを投稿しています</p> <p>子どもの健康維持に取り組むために毎月保健だよりを発行し、健康管理の方法や時事的に話題のコラムを発信しています。そのほか、毎日、写真・動画のSNSに給食とおやつレシピを投稿しています。感染症の流行やSIDSの発生を予防するために、職員は感染症蔓延防止策の実施手順などから理解を深めています。感染症が発生した際は、玄関内の専用掲示板(ホワイトボード)への掲示と保育アプリからの配信で情報提供しています。SIDS対策として、職員による視診を行いながら午睡時の子どもの健康状態を確認し、午睡チェック表に記録しています。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>就労状況確認書や個別面談などを通して、保護者の状況や園への意向を把握しています</p> <p>保護者に対し、保育理念の4つの育ちの一つ「親育ち(親が親として育つ)」のもと、支援を行っています。また、保護者への支援に対して、担任は主任や園長へ相談するとともに、職員会議にて随時、共有しています。また、子育てや就労等の事情に配慮して支援を行うため、就労状況確認書や個別面談により、子育てに関する保護者の価値観や就労状況を把握し、行事アンケートや個別面談により、日常的なサービスに係る保護者の意向を確認しています。直近では、保護者のニーズにより英語レッスンを導入しています。</p> <p>保護者と職員の信頼関係を深めるために、クラス懇談会などを定期的に行っています</p> <p>保護者同士の交流促進を目的として、親子遠足を開催しています。また、保護者と職員の信頼関係を深めるための取り組みとして、年度初めにクラス懇談会を開催しています。また、保育参観は年1回、6月の1か月(2～5歳児クラス)、10月の1か月(1歳児クラス)、個別面談は年1回(6月:2～5歳児クラス、10月:1歳児クラス)実施しています。あわせて、運営委員会を年1回(3月)に開催しています。そのほか、職員一人ひとりを知ってもらうために、園内に職員が手作りをしたパッチワークに職員の顔写真を掲示して、紹介しています。</p> <p>クラス懇談会や保護者面談、SNS投稿を通じて保護者の養育力向上に努めています</p> <p>子育てについて保護者との理解を深めるために、クラス懇談会や保護者面談を行い、「水遊び時の水着及び持ち物について・育休産休時の保育時間について・食事・排泄について・親子遠足について・身支度について・戸外活動について」などのテーマで意見を交換しています。その際は、感染症等に配慮し、オンラインコミュニケーションアプリで参加できるよう全職員にタブレットを貸与しています。保護者の養育力向上に向けて、給食で提供する料理のレシピを写真・動画SNSで毎日公開し、育児に役立つ情報を伝えています。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>多様な経験や地域交流を通じて、子どもの世界観を広げています</p> <p>多様な経験と地域環境にふれ、子どもの世界観を広げることを目的として、さまざまな体験をしています。散歩先の公園で植物や虫の観察などを体験するほか、町会主催の夏祭りの案内や、近隣の公立保育園との年長児クラス園児どうしの交流など積極的に地域との交流を図っています。加えて、消防署との交流が深く、散歩の際に消防車に試乗させられたり、消防士に来園してもらい絵本の読み聞かせをしてもらったりしています。さらに、就学に向けて、5歳児が小学校主催の小学校見学に参加するなどさまざまな体験を行っています。</p> <p>園外のさまざまな人と触れ合うことで多様性の理解を促進し、社会性を育てています</p> <p>異なる年齢やさまざまな職業の人とふれ、多様性の理解を促進することを目的として、職員以外の人とも積極的に交流しています。具体的な取り組みとして、ひがたまクラブ(保育所体験)を毎月開催するだけでなく、夏祭りやクリスマス会にも招待しています。なお、開催に際しては、園ホームページや近隣の児童館へチラシを配布し、参加を促しています。また、次世代育成支援(小中高生職場体験)や保育拠点活動支援(養成校の学生による保育実習)も行い、保育実習生、ボランティア、職場体験、インターンを受け入れ、交流活動を体験してもらっています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル①	マニュアルや資料を作成し業務の標準化を図っています	
内容①	業務の標準化を図るため、「東玉川善隣保育園で行いたい保育」を職員に配布するとともに、園のホームページ上にPDFで掲載しています。保育の質の向上に対する「5つの基本的な視点」「3つのテーマ」「方策」「ゾーニング保育」などを明記し、職員間で共通言語化を図っています。この資料は、園のホームページにもPDFで掲載し、保護者などに向け広く園の考えを発信しています。そのほか、園独自に「お散歩コースマニュアル」などのマニュアルも作成し、主任保育士を中心に日々の保育の中で確認しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	ゾーニング保育を通じた保育環境の整備や遠足など豊富な野外活動を行っています	
内容②	ゾーニング保育を通じて、子どもの自主性や主体性を育てています。子どもの成長段階や一人ひとりのニーズに合わせた環境を提供するため、静的・動的遊び、絵本などを異なるゾーンに分けて、子どもが自由に選択できるようにしています。加えて、豊富な野外活動により、子どもの健康や体力の向上だけでなく、自然環境に触れることで感受性や環境への関心を高め、社会性やコミュニケーション能力を発展させています。さらに、散歩や遠足などの野外活動を行い、公園や自然の中で様々な体験や遊びから好奇心や創造力を刺激し、健全な成長を促しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル③	クラス懇談会や保護者面談により保護者の意向を把握し、英語レッスンを開始しています	
内容③	子育てについて保護者との理解を深めるために、クラス懇談会や保護者面談を行い、「水遊び時の水着及び持ち物について・育休産休時の保育時間について・食事・排泄について・親子遠足について・身支度について・戸外活動について」などのテーマで意見を交換しています。また、行事アンケートや個別面談により保護者の意向を確認しています。その上で、「英語レッスン(正課プログラム)の導入」に取り組み、3・4・5歳児を対象に英語レッスンを開始しています。加えて、今年度より2歳～5歳児までの英語ダンスも開始しています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	環境の違う2つの園庭や年齢・目的に合わせたゾーンを設定することで、他児との関わりを育み協同的な遊びを展開しています
	内容	3階まで伸びた吹き抜けのある園舎には、園庭を2か所設置しています。1階にあるピロティでは日差しが強い日や雨天でも十分に体を動かすことができ、人工芝を敷いた屋上では季節に応じた遊びを行っています。また、1・2歳児クラスのあるフロアには「床で遊ぶ」「稼働遊具」などのゾーンを、3・4・5歳児クラスのあるフロアには「知恵を使う遊び」「伝承遊び」「文字・数」などのゾーンを設けています。なお、子どもの成長に合わせて具体的なゾーン名は変更しています。このような環境の中で、他児との関わりを育み協同的な遊びを展開しています。
2	タイトル	絵本を使用した紹介や調理体験を通じて、子どもの食文化や栄養に関する知識・関心を深めています
	内容	食文化や栄養に関する知識と関心を深めることを目的とし、毎月食にまつわる絵本を使用した料理の紹介や、給食の食材について三色食品ボードを使って説明しています。また、調理体験は、3歳児クラスから機会を設けて野菜の皮むきなどを体験するとともに、5歳児クラスになると、手打ちうどんなどの調理も行っています。利用者調査の設問「昼食・おやつなどの給食は、お子さんの成長段階や健康状態に応じて工夫されたものになっていると思いますか？」では「はい」の回答率が96.6%となっており、高い満足を得ていることが確認されました。
3	タイトル	地域に根差した運営を目指し、子育て支援事業「ひがたまクラブ」の開催や地域・近隣小学校の交流に取り組んでいます
	内容	地域貢献の取り組みとして子育て支援事業「ひがたまクラブ(保育所体験)」を年10回以上実施しています。具体的な内容として、在園児との制作物作り・夏祭り・クリスマス会などの園内行事への参加を企画し、ホームページや近隣の児童館へのチラシ配布により周知しています。また、近隣公立園との交流(自己紹介・園庭遊び・ホール遊び)や、幼保小連携交流会として、近隣の5歳児と一緒に小学生との交流に参加しています。そのほか、地域の新春祭りや近隣小学校の90周年祝賀会などに職員が参加するなど、地域に根差した運営に取り組んでいます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園で大切にしている考えや保育内容について、職員の理解を進める価値が認められます
	内容	「東玉川善隣保育園で行いたい保育～自主性・主体性を育む未来の保育～」を整備し、ホームページで公開するとともに、入職時に説明し職員の理解を深めています。全25ページに渡る資料の中では「法人理念」「保育理念」に加え、園で行っている保育内容やねらいについて詳細に示しています。ただし、職員自己評価の設問「事業所業務の標準化を図るための取り組み」の各項目において、職員の理解が進んでいない状況が確認されました。園で大切にしている考えや保育内容について、職員の理解を進める価値が認められます。
2	タイトル	数値化し定量的に示された中長期計画を作成するとともに、キャリアパス制度の構築を目指しています
	内容	年度計画は法人計画の一部として園長が作成し、サーバーに保管するとともに年度初めの職員会議で伝えていきます。なお、計画を見直す場合は理事会で検討し、園長が中心となって判断しています。ただし、園の将来的な展望を示す中長期計画や職員育成の指標となるキャリアパスは整備していません。今後、定員の確保に向けて競争が激化することを予想し、これらの資料や仕組みの整備に取り組む必要性を感じています。そのため、数値化し定量的に示された中長期計画を作成するとともに、キャリアパス制度の構築を目指しています。
3	タイトル	事業継続計画(BCP)は今年度より整備することが努力義務化されており、整備を進めていくことが期待されます
	内容	運営に係るリスクは理事会で検討し、「園児の定員割れ」「職員定着率の低さ」「保育制度の改正」などを挙げています。また、事故報告書は園内で周知するとともに、区に報告しています。さらに、提出されたヒヤリハットは保育アプリを使用して職員間で共有し、職員会議で対策を検討しています。一方で、事業継続計画(BCP)については未整備の状況です。今年度末に向けて作成を進めていますが、着実な整備と職員や関係者への周知が期待されます。